

失敗力を付けよう

校長 藤田 雅彦

36日間の夏休みが終わり、学校には子どもたちの元気な声が戻ってきました。まだまだ色々な部分で気の抜けない夏でしたが、有意義な夏休みとなりましたでしょうか。2学期もどうぞよろしくをお願いします。



金管バンド
県コンテスト(8/23)に向けてチャレンジ!

1学期の終業式、私は子どもたちに次のような話をしました。

この夏休みは、「自分にチャレンジ」をしてください。先日、説明があった「おだるまるチャレンジ!」を、50周年を迎えた大谷口小学校での夏休みに、一人でも多くの皆さんに「チャレンジ」してもらいたと思います。大谷口小50周年キャラクターの“おだるまる”は、“何度失敗してもくじけずにちゃんと起き上がる”という作者の松浦七愛さんの思いが込められています。

さあ、皆さん、この夏は失敗を恐れずチャレンジ! そして、チャレンジがうまくいった人も、いかなかった人も、「チャレンジした自分」に自信をもって、2学期も色々なことにチャレンジしてください。私も、これからチャレンジすることを見付けて、夏休み中にチャレンジしたいと思います。

この“おだるまるチャレンジ”は、11月26日(土)開校50周年記念式典での生発表(2組程度)&動画放映を行うものです。それに向けて、エントリーシート配付・受付、チャレンジ内容確認、チャレンジ動画撮影を計画しています。子どもたちのこの夏休みのチャレンジを発表する場として、心に刻まれる取組にしたいと思います。

たくさんチャレンジして、たくさん失敗しよう

この夏休み、私は、ある体験型学習を行っている施設での研修会に参加する機会があり、小学生向けのプログラミングのワークショップを体験しました。その中で進行役のスタッフの方から何度かあった言葉は、「安全が第一ですが、あえて詳しくは説明しません。」「先ずは、実際に体験してもらいます。」「質問があったときは回答しますが、こちらからは特に何も言いません。」でした。私たち大人は、どうしてもアレやコレやと“失敗をさせない先回り”をしてしまいがちです。「自分が考えた方法で、色々チャレンジすること」「失敗したらどうしたらうまくいくのかを自分で考え、また違った方法でやってみること」が、とても大切だとも話してくれました。

岩立京子氏(東京家政大学子ども学部教授)は、子育てには“いい先回り(お膳立て)”と“悪い先回り(失敗をさせない先回り)”があると云います。

私は、失敗することのメリットは、経験ができる・自分に足りないことに気付けることだと思います。チャレンジしなければ失敗することもできません。先ずはチャレンジ! もちろん成功体験から得られる自信や新たなやる気はかけがえのないものです。しかし、実際にはなかなかうまくいかないことの方が多いはずで。そこで、失敗をただの失敗で終わらせるのではなく、次につながる力(=失敗力)を付けるためにもう一步、『なんで?(失敗の原因を探り)、どうしたら?(その解決方法を探し)、もう一度(解決策を実行する)』を意識して取り組むといったサイクルを意識し、身に付けることが肝となるポイントでしょう。そのためには、私たち教職員、保護者が“失敗をさせない先回り”を我慢して子どもたちをしっかりと見、バランス・タイミングよく手を差し伸べること(お膳立て)が重要なかもしれません。

学校生活も子育てと同じ。一人ひとり長所の違う子どもたちのチャレンジに気付き・いい先回りをして・チャレンジを認め、ほめる・次のチャレンジに手助けすることを心がけて接し、“失敗力”を育てていきたいものです。